

	センターからのお知らせ	1P
	植物同好会観察活動のまとめと報告	2～3P
	パートナークリーンアップ報告・計画	4P
	身近な水環境の全国一斉調査活動計画	4～5P
	図書活動報告・計画	5P
	センターパートナーの表彰	6P
	私の細道（33）大石田	6～7P
	コラム、職員の紹介、編集後記	8P

パートナー情報誌 KASUMI 第23号（通巻61号） 発行日 令和2年5月31日

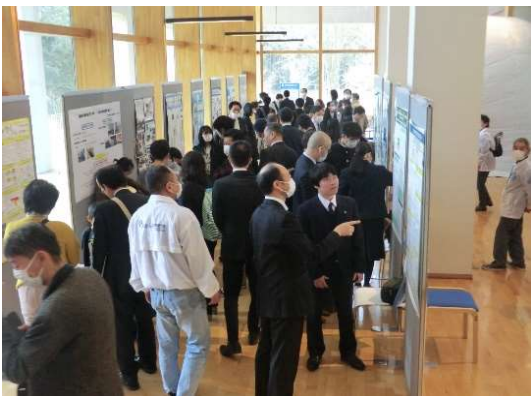
## センターからのお知らせ

### □福島センター長あいさつ

当センター設立当初からセンターのさまざまな事業、活動にご協力いただき、深く感謝しております。皆様方のお力添えがあつての事業、活動になっているものも多くあります。今後とも、市民感覚による柔軟な発想を生かして、また気楽に、楽しんでいただくことにより、センターの発展に寄与していただけるよう、お願いいたします。

今年度も、皆様と力を合わせて、霞ヶ浦やその流域の環境保全に取り組んでいきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### □「環境学習フェスタ」の報告



令和2年2月15日（土曜日）、「霞ヶ浦環境科学センター環境学習フェスタ」を開催しました。当日は晴れて気温も上がりイベント日和でした。イベント全体で2,300名の方にご来場いただきました。メインプログラムの「環境学習発表会」では、県内で環境学習・活動を行っている学校・団体・パートナーの皆さんに、日頃の学習・活動の成果を発表していただき、来場した方たちの環境への関心が高まる契機となったことと思います。イベントの運営にご協力いただきましたパートナーの皆様、この場を借りて感謝申し上げます。（センター 大森）

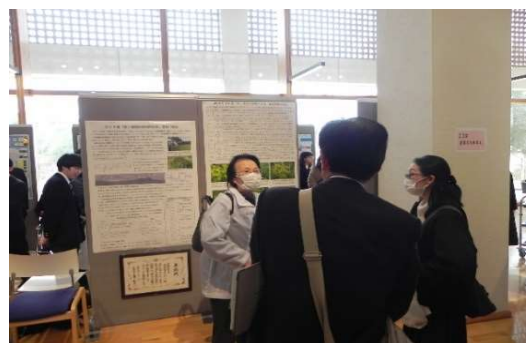
【環境学習発表会（ポスター発表）】

### □パートナーポスター発表実施報告

2月15日（土曜日）に開催された「環境学習フェスタ」にあわせて、日々のパートナー活動を紹介する「パートナー活動報告会」を実施しました。

発表はポスター形式にて行い、当日は「パートナー霞ヶ浦クリーンUp」、「植物定点観察」、「身近な水環境の全国一斉調査」、「図書紹介、新聞スクラップ、読み聞かせ活動」、「魚類等定点調査」の5グループの活動報告ポスターを掲示し、パートナーの浅野さん、有吉さん、二階堂さんに来場者に対してポスター説明をしていただきました。

中には内容について詳しく質問している来場者も見受けられ、パートナー活動を内外に発信することができ有意義な報告会となりました。この場をお借りして感謝申し上げます。（センター 野澤）



【活動報告の様子】

# 2019年度後期「霞ヶ浦湖岸植物定点観察」活動のまとめ

A区低地で自然再生工事、水際植生とカマツカは保存。B区再生地の水際改修。H区でミズヒマワリが生育地広げる。

月/日	ABEFGHKL 区観察概況 (I・B・II:絶滅危惧I B類・II類, 準:準絶滅危惧, 特外:特定外来生物)
R元 10/9	大型台風襲来、E区伐採跡に繁茂していたアレチウリ(特外)が減少した。ヨシ開花・セイタカヨシ(県準)出穂。蓮田で <b>ミズアオイ</b> (国・県準)、低地でサクラタデ・ヤナギタデ・アキノウナギツカミなどイヌタデの仲間が花盛り。B・H区でハツカ、K区でオグルマが開花。ノアズキ(県準)、ツルマメ、タンキリマメ(県II)など多数の実を付け開いた莢も見られた。
11/13	熟したヨシやオギなどの果実散布が始まり、エノキやツタなどの紅(黄)葉や色とりどりの草木の実が見られた。A区で <b>カマツカ</b> とツルウメモドキ、E区でサネカズラの実が色づいた。低地でサクラタデ等の花被の紅色が濃くなり、サデクサ、アキノウナギツカミ、ミゾソバには3稜形の黒い種子が付いていた。H区で赤いタコノアシ(国・県準)の実があった。
12/11	師走の湖岸はヨシやセイタカアワダチソウの茎が枯れ始め、灰白色の穂が果実を散布中だった。スイカズラは丸まった冬葉になり、アキノレ等の低木は黄葉だが高木のムクノキやヤナギ類は落葉した。法面では赤味を帯びたスイバのロゼットが目立つ。H・I区再生地で <b>ミズヒマワリ</b> (特外)の生育地が拡大し水面上に多くの葉を茂らせている。
R2 1/8,10	マルバヤナギ等の裸木が目立つ中、セイタカヨシ(県準)は緑葉を付け枯れヨシと共に果実散布中。クサヨシは紅葉と新葉をタチヤナギは黄葉を付けていた。常緑のキツタやシロダモが実を付け、タブノキの赤い冬芽が目立つ。雨で水位が上がって低地の各所に水溜りが見られた。H・I区やL区で <b>オオフサモ</b> (特外)が水面上に伸びていた。
2/12	日当たりのいい堤防法面ではオオイヌフグリやヒメオドリコソウなどが開花し、EG区低地で <b>ノウルシ</b> (国・県準)が芽を出した。H・I区再生地では特定外来生物のオオフサモとミズヒマワリの勢いが衰えず、カワヤナギ・オノエヤナギなどの銀白色の蕾が顔を出した。A・B区低地や再生地は自然再生事業の工事中で、火入れも行われた。
3/11	群生するオオイヌフグリやヒメオドリコソウが満開で、タガラシ・セイヨウカラシナ・セイヨウアブラナなどの黄色い花も見られた。低地や再生地で <b>イヌコリヤナギ</b> などの雄花・雌花が見られ、展葉と同時にタチヤナギの雄花が開いた。H区再生地の水面下にタコノアシ(国・県準)の小さなロゼット状の芽が出ていた。B区再生地の水際部分が改修された。



10月H区**ミズアオイ**(ミズアオイ科)1年草  
水田雑草だったが国・県準絶滅危惧種。



11月A区**カマツカ**(バラ科)落葉樹  
山野に生える小高木。鎌の柄にした。



12月区**ミズヒマワリ**(キク科)常緑多年草  
中南米原産特定外来生物。繁殖力旺盛。



1月L区**オオフサモ**(アリトウグサ科)  
多年生の南米原産特定外来生物。



2月G区**ノウルシ**(トウダイグサ科)多年草  
湖岸の春植物。国・県準絶滅危惧種。



3月H区**イヌコリヤナギ**♂♀(ヤナギ科)  
低木で白銀色の蕾を対生に付ける。

# 2019年度「霞ヶ浦湖岸植物同好会」活動の報告

2019年度は、環境学習推進活動の一環として主にセンター主催の「自然観察会(植物)」に於ける補助活動及び「いきもののにわ」の整備・観察学習活動と、パートナーの自主企画活動としての「湖岸植物定点観察」を行った。

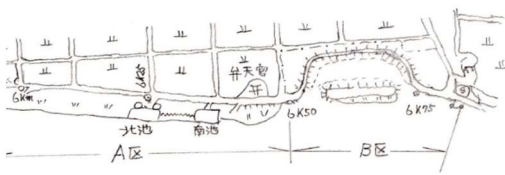
**自然観察会(植物)**は霞ヶ浦流域内の植物観察を通して霞ヶ浦の水質浄化に関心を深めてもらう目的で、特定月の主として第3土曜日に4回実施された。

**湖岸植物定点観察**はセンター下の湖岸(下図)において、環境の変化が植物相に及ぼす影響を見るため毎月第2水曜日に実施した。湖岸の代表種、絶滅危惧種、特定外来生物などは指定種として年間を通して継続観察した。またその他の植物についても特徴がある花・実・冬芽などを適時に観察・記録した。毎月観察の概要と共に旬の植物写真に説明を付け2階展示コーナーに毎月掲示しました。(代表 有吉)



自然観察会に於ける補助活動  
R1-9-7 崎浜湖岸:アサザの群生

## 地区別観察のポイントと指定種等



- A 区: 北新池オニナルコスゲ・南小池のサジオモダカ(県準)の生育状況
- B 区: 自然再生事業・火入れ実施後の植生変化、タコノアシ(国県準)の生育状況、ミズヒマワリ(特外)等の増殖状況。



再生地に出現したカンエンガヤツリ



H区(H27-29 再生事業): 重点観察区悉皆調査 ヤナギトラノオ(県Ⅱ)・ジョウロウスゲ(国Ⅱ 県準)・ミクリ(国県準)・ノアズキ(県準)等希少種を含む以前からあった種の生育範囲の変化、再生後出現したカンエンガヤツリ(国Ⅱ 県準)・サンショウモ(国Ⅱ 県ⅠB)・タコノアシ(国県準)・トチカガミ(国準 県Ⅱ)・カワヂシャ(国県準)・ウスゲチョウジタデ(国県準)・ミズアオイ(国県準)等希少種の増減や特定外来生物オオフサモ・ミズヒマワリ・アレチウリの繁殖状況

I区追加調査(同再生事業浅水域作出): 期待される沈水・浮葉植物の出現確認

EF区: 広範囲の樹木やセイタカヨシ(県準)伐採による植生変化、アレチウリ(特外)の侵入状況

G区: ノウルシ(国県準)・ジョウロウスゲ(国Ⅱ 県準)等生育状況

KL区: アサマスゲ(国準 県ⅠB)・オグルマ・タンキリマメ(県Ⅱ)等の生育状況

(日程)9:00 集合(冬季は9:30)・準備(記録用紙,カメラ他)

9:30~12:00 現地(H区: 悉皆調査 AB・IEFG・KL区指定種等観察)

12:15~昼食 12:45~13:15 新出種等報告 13:15~15:00 記録整理

## 自然観察会(植物)補助活動の実績

月・日	テーマ	場所
5・25	(2)河畔林の植物観察(柳絮)	小貝川:下妻市. 母子島
9・7	(6)霞ヶ浦周辺の水草観察	かすみがうら市一の瀬川、崎浜湖岸、余郷入
10・5	(7)秋・里山の植物観察	阿見町小池城址公園
11・2	(9)秋のスタジイ林	椎尾山薬王院、つくし湖

## 「いきもののにわ」整備活動の実績

毎月第4水曜日 10:00~11:30 (12月は第3水曜日の18日)

作業内容: 除草、間引き、移植、コンテナ・プランターの整理、名札整備等

活動月-日	関連活動
H31-4-11	春季(雨で延期)
R1-5-8,9	〃 集合9:00
6-12	夏季9:00 集合
7-10	〃
8-7	〃(お盆で繰上げ)
9-11	秋季9:00 集合
10-9	〃
11-13	〃
12-11	冬季9:30 集合
R2-1-8,10	〃
2-12	〃
3-11	9:00 集合
3-25	同好会打ち合わせ
	2019 反省 20 計画

## パートナー霞ヶ浦クリーンUP自主活動（2019年度報告、令和2年度計画）

平成23年の活動開始から丸8年になります。平成最後の活動は雨で1回の中止はありましたが、概ね計画通り活動することができましたので、活動結果を報告致します。

パートナーにできる身近な活動として「きれいな霞ヶ浦」をテーマに霞ヶ浦湖岸（2.3km）のゴミ拾いをセンターのご協力も得ながら、毎月1回の頻度で実施しています。

限られた区域ですが、「ゴミの捨てづらい環境をつくる」を合言葉にパートナー有志で活動しています。ゴミの量も年々減少傾向でメンバーの励みとなっています。

湖岸の土手もサイクリングロードとして整備され、県内外から訪れる方も増加しており、一層の環境への配慮が問われています。昨今は、活動に対して関心の高まりもあり、利用者の皆さんから「ご苦労さま、ゴミは持ち帰るよ」「ゴミ袋を持参したよ」などの声も掛けて頂き、嬉しく思います。

10月に第17回世界湖沼会議が開催されたこともあり、活動の輪が一層広がり、環境に関わる多くの皆さんとの連携も密になり、実践に向けての新たなスタートができたのではないかと思います。

### （活動概要）

令和2年2月に雨の影響で1回の中止がありました。ゴミの量は僅かですが、減少傾向にあると感じます。

湖岸再生事業の工事も進み、活動対象区域内の景観も大きく変化しており、活動を通じて植生を含めた環境変化にも充分注視して活動したいと思います。

### （活動実績） 2019年4月～令和2年3月まで

- ・回収総量：59.6袋、回収の内訳は可燃→34.5袋 不燃→25袋
- ・参加者延人員：46人

\*湖岸に漂着するゴミを見ると、霞ヶ浦全体としてのゴミの量は、まだまだ多いと思われます。霞ヶ浦流域の一人ひとりの環境への配慮が引き続き必要です。

### （令和2年度活動計画）

- ・活動日は毎月1回、年12回

偶数月：第3日曜日→4/19・6/21・8/16・10/18・12/20・令和3年：2/21

奇数月：第3金曜日→5/15・7/17・9/18・11/20・令和3年：1/15・3/19

- ・時間：9時～11時頃、実施区域、作業内容は昨年に準じます。

今後もパートナー有志による活動をセンターのご支援を得ながら継続したいと思います。

皆さまのご参加をお待ちしています。

（パートナー 尾形）

## 17回身近な水環境の全国一斉調査活動計画

本活動は平成25年6月の「第10回身近な水環境の全国一斉調査」から続けて参加している活動です。第17回（令和2年）で連続8回の参加となります。第17回身近な水環境の全国一斉調査も、下記のとおり第16回全国一斉調査と同じ調査内容で計画、事務局へ参加申込みをしました。パートナー皆さんの参加をお待ちしております。（下記内容は3月上旬の事務局申込み時点の内容です。

調査内容は新型コロナウイルス感染防止のための、県自粛要請ステップ1の段階で改めて協議いたします。）



【調査風景 桜川（襖橋） R1.6.2】

- ・調査日（予定）：令和2年6月7日（日）～7月31日
- ・調査内容，方法：統一調査マニュアルに基づく気温，水温，試水水温，パックテストによるCOD測定，透視度，電気伝導度を調査。この他，特記事項として水辺の状況・流れ・濁り・散乱ごみ，川の変化についての意見（今と昔）の実施。
- ・調査地点：桜川（襖橋），清明川（阿見橋），小野川（下根大橋），巴川（新巴川橋）の4地点です。  
（パートナー 浅野）

## 2019年度図書活動報告及び令和2年度図書活動計画

### 1, 文献資料室の図書紹介文の作成

文献資料室の図書を多くの利用者に知ってもらい，利用促進を図るため，新規購入図書を中心にパートナー自ら図書を読み紹介文を作成しています。

活動は第2，第4金曜日です。2019年度（2019年2月～2020年3月）は200冊の新規購入図書（寄贈図書を含む）の中から78冊の紹介文を作成しました。令和2年度も同じ内容の活動予定です。センター2階交流サロンに「図書紹介一覧」が有りますのでどうぞご覧下さい。  
（パートナー 浅野，高石，古田 小高）



【図書紹介】

### 2, 読み聞かせ活動



【読み聞かせ活動】

文献資料室所蔵の絵本，紙芝居等の中から自然保護や水質汚染，地球温暖化などの環境問題を題材にしたものを中心に読み聞かせ実演をしています。

活動は原則センターイベント開催月と冬季を除く第4土曜日で2019年度は7回実演しました。聞いてくれた人は（のべ）43名で，こども25名 おとな18名でした。お客さんにはパートナー手作りの「しおり」をプレゼントしています。

また，お客さんの増加を目指してパートナーによるマジックの実演も取り入れております。

令和2年度も同じ内容で活動予定です。

（パートナー 浅野，小松，戸嶋，森田）

### 3, 新聞スクラップの作成



【新聞スクラップ活動】

[活動日]毎月2回（第2,4週の金曜日）

[活動内容]朝日，毎日，読売，日本経済，茨城の5新聞を対象とし，下記テーマに基づいて記事をピックアップ，編集，ファイリングしています。

[テーマ]①霞ヶ浦流域における河川，湖沼などに関する情報に限定する。

②生物多様性，地球温暖化など環境問題をテーマとした新聞社説，論説はすべてクリップする。令和2年度も同じ内容で活動予定です。

（パートナー 内田，岡田）

## 環境保全者功労者表彰に係るセンターパートナーの表彰について

令和元年12月18日(水曜日)に茨城県市町村会館で行われた令和元年度環境フォーラムにおいて、センターパートナーが環境保全功労者として表彰されました。

この表彰は、環境保全に対する取り組みの成果が極めて顕著である個人や団体を称えるもので、授賞理由としては、センター設立当初からの各自主企画活動のほか、センター環境学習の補助やイベント運営補助等パートナー全体の活動の功績が認められたことが挙げられます。

賞状はセンター2階パートナーズルームに掲示しておりますのでぜひご覧ください。



(センター 野澤)

## 「私の細道」(その33)

大石田

山寺(立石寺)で有名な蟬の句を残した芭蕉は、曾良と共に来た道を取って返し、また北上して天童を経て、尾花沢のすぐ側にある大石田へと向かった。「曾良随行日記」に山形へ行く予定であったが止めたとあるように、当初の予定では、山形まで南下して羽黒三山を経て酒田へ抜ける予定であったが、尾花沢で会った大石田の俳人、高桑川水の要請によって行路変更したようである。「曾良随行日記」によると、芭蕉らはこの大石田で元禄2年(1689)5月28日から高野一栄宅に3泊しており、一栄や川水の案内で曹洞宗向川寺に出向いている。

一栄は船問屋、川水は大庄屋であり、この地で談林派の俳諧の中で戸惑っていたようで、芭蕉の来訪には期待するところが大きかったのであろう。芭蕉・曾良と共に、4人で歌仙を巻いている。この発句が芭蕉の「五月雨を集めて涼し最上川」である。一栄宅は船問屋であり、最上川の傍で揺蕩(たゆた)う川の流れを眺めつつの芭蕉からの大石田への挨拶句である。歌仙は次のように続いていく。

五月雨を集めて涼し最上川	芭蕉
岸にほたるをつなぐ舟杭	一栄
瓜畠いざよふ空に影待て	曾良
里のむかひに桑の細道	川水
うしの子に心慰む夕間暮	一栄

芭蕉は、後にこの発句を「五月雨を集めて早し最上川」と推敲して「おくのほそ道」に掲載されることとなる。

平成 30 年（2018）7 月 1 日、私は、尾花沢を訪れた後、養泉寺で「大石田」とナビに入れると、なんと大石田へはほんの 10 分程度の距離であった。



【白壁堤防実物模型】

えが、芭蕉の直筆で残されていると言う。先に記した《さみだれを集めて涼し最上川》から始まる三十六歌仙である。「良い字ですね」と私に同意を求める。私に分かる由もなく、「そうですね」とお愛想で応える。私が芭蕉の「おくのほそ道」の跡を追ってここまでやっと辿り着いたと話せば、更に熱が入り、これもこれもと興味深い説明が続く。芭蕉への並々ならぬ熱意を感じた。じっくり見て回ると、芭蕉だけではない。与謝蕪村、更には正岡子規・河東碧梧桐・大町桂月等の句や絵もあり、地方資料館とはいえ、実に見応えがある。

更にこの資料館の建屋の別棟が斉藤茂吉の大戦時の疎開で滞在した家であると聞き、これも見学することが出来た。「聴禽書屋」という。ちょっと、立寄ったつもりであったが、大きな収穫があった。

佐藤館長から、最上川を見ましたかと、この辺の絵図を見せてくれた。対岸からこの資料館辺りを望んだ絵図で、白壁が見える。この部分が我家ですと、白壁の一部を示す。最上川の堤防が白い漆喰の蔵屋敷の塀となっているのだ。礼を述べ、資料館を辞して、早速、川向こうの河岸から最上川を介して堤防を眺めた。白壁がそのまま長い堤防となっており、大石田の歴史かくやと思われる景色であった。

この後、大石山乗船寺には出向いたものの、当初、大石田で訪れようと思っていた曹洞宗向川寺や石水山西光寺には、帰りの新幹線への時間切れで、残念ながら見残す羽目となった。

最近、大石田町のホームページ 2018 年 7 月付の「広報おいしだ」に、なんと、佐藤館長の芭蕉歌仙の解説が掲載されているのを見つけた。丁度私が訪問した時期であり、実にタイムリーであったことになる。

芭蕉にとって大石田滞在は当初の予定にはなく、思いがけない旅の収穫であった。「このたびの風流ここに至れり」と記している。

向川寺の場所や芭蕉との関連を尋ねてみようとしたまま歴史民俗資料館に立ち寄ったところ、玄関口に丁度入りかけていた人に会った。「芭蕉に」と言い掛けると、「丁度良いところに来た」とばかりに、どうぞどうぞと招き入れられた。入館料を払っていると、もう、展示室で待っている。「あれ、館長なんです。」と係の人。

佐藤里美館長。「今、芭蕉の真蹟を展示中なんですよ。」と熱のこもった説明。いつもはコピーが展示されており、館長と云えどもいつでも見る事は出来ない代物らしい。上述した芭蕉と曾良が大石田滞在中に地元の一栄や川水と共に巻いた歌仙の控



【最上川沿いの白壁塀堤】

(パートナー 小松)

## コラム「新聞記事スクラップから」

環境科学センターで作成している環境関連の新聞スクラップ記事から、話題性を考えてご紹介しています。平成20年1月13日の常陽新聞に、行方市の環境保全ボランティア「かいつぶりの会」が国土交通省主催「手づくり郷土賞」の中の「地域活動部門賞」に全国52団体の中から選ばれた記事がありました。この会は行方市沖洲のごみの山で人が寄り付かなかった所を清掃し、植樹してかつてのポプラ並木再現を行った会です。

会の名前に用いたカイツブリは、飛べないし見栄えも良くないが水底のことは何でも知っている。これは地元に住む自分たちも同じで、朝から夕方まで良く働くカイツブリのように精一杯活動してゆこうとの意とのことです。自分たちの活動をきっかけに流域住民が一体となって、恩恵を受けている霞ヶ浦をきれいにしてゆくことを目指しているとのことでした。

(パートナー 古田)

## パートナーに関する新任センター職員の紹介

参事兼副センター長兼総務課長 のぐち 野口 しょうじ 庄 壽

環境活動推進課係長 すずき 鈴木 たかし 隆志

環境活動推進課主事 ひらかわ 平川 あつし 惇

” 主事 みやかわ 宮河 あやの 彩乃

” 会計年度任用職員 いしまる 石丸 のりこ 紀子

\*\*\*<編集後記>\*\*\*



いまだ、終息の見えないコロナ禍の蔓延が世界に暗い影を落とし、経済への影響が取りざたされ、既存の豊かさを支える社会構造が揺るがされています。しかし、自粛要請の第一義は、生命及び健康であり、私達のすべきことは、自らの衛生管理であり、媒介者にならないことでもあります。

一方、人類挙げての対策に、世界各地で大気汚染が改善されたとのことであるが、そもそも病原の発生・変異が人為的なものでなければ、気候変動との因果は否定できない。環境の劣化は不可逆であり、今ある脅威を対症療法で取り繕っても、災厄が繰り返されることは避けられません。

編集会議において原稿の確認を済ませた直後に緊急事態宣言が発出されました。加えて当県においては特定警戒都道府県という肩書が付され、センターの業務、パートナー活動にも制約が課せられることになり、本誌の発行についても猶予を頂きました。

然し乍ら、編集作業は、緊急事態の解除を待たずとも在宅で十分進めることができ、従前の予定日には発行が可能な状況でありました。小生も締切厳守で臨んでおりましたが、拙い技巧に加え連絡の遅れ不備により、大幅な遅れを招いてしまいました。

これまで本誌の発行に携われてこられた皆様にお詫びを申し上げますとともに、自らを戒め、今後の糧として精進してまいりますのでご指導の程よろしくお願い致します。

(パートナー 栗原)

「香澄」編集委員会：浅野明宏，尾形孝彦，有吉潔，廣原毅，栗原繁，樽見博文，大森那月